

## 七尾藍佳さん

ななお・あいか●ジャーナリスト、国際メディアコンサルタント。Bloomberg TV 東京支局元特派員。東京大学教養学部卒業後、日本テレビ系列「NEWS ZERO」やNHKワールド「NEWS LINE」等のキャスターを経て、グローバルな目線で情報を発信している。一児の母。



YASUYUKI NOJI

## 七尾藍佳さんがレポート

## 「みんなでチャリティ」最前線

こちらのページでは、毎回テーマごとに、どのような厳しい現実があるのか？ また、ヴァンサンカンのエレ女が、チャリティ活動にどのように参加できるのか？ を探ります。ジャーナリストとして活躍中の知性派エレ女、七尾藍佳さんにレポートしていただきます。

Text: AIKA NANAO

## Vol.20 地域でサポートする子育て

子育ては、近くの人にサポートしてもらおう

「近所の方にとちょっと子どもを見ていただくなど、昭和の時代に当たり前だったちよつとした助け合いを、85%の世帯が核家族として生活する現代日本に取り戻さないと、これからの少子高齢化社会は回らない。そんな観点から、株式会社 AsMama が提供するオンライン共助コミュニティ「子育てシェア」は、顔見知りの間で送迎や託児を頼り合えるシステム。代表取締役で創立者の甲田恵子さんに、AsMama を立ち上げたことへの思いを伺いました。

「20代のころの私は野心的でキャリア志向でした。出世すれば安定した生活が得られると頑張っていました。が、リーマンショックの翌年、当時、勤めていた会社で9割の人員が解雇されたことがあり考え方が一転。これからは会社や国などの大きなものにすがらず、身近な困りごとを信頼できる人に助けってもらえて、逆に自分も誰かの役に立つことで生き生きできる生活をサポートするプラットフォームが必要だと思ったことが始まりです」。立ち上げから8年を経て、甲田さんは女性たちの意識の変化に手応えを感じています。

「働きたいという意識はママ側でも高まっていると思います。それも22時までの残業が当然の男性並みの働き方ではなく、例えば週3日、スキルを生かして在宅で働くなど、多様な働き方を女性が求めるようになってきました。きちんと働くということは長時間働くことではなく、いざというときは育児も家事も誰かに頼れる体制を整えること。急な会議が入っても預けられる人がいて、責任をもって仕事に取り組めることが、女性が働き続けるうえで「ごく大事だと感じています」。

「社会全体がこれほど女性の活躍を応援してくれる時代なんて、後にも先にもない今だからこそ、仕事も育児も一人で抱え込まず、うまく周囲を頼りながらやりたいことにチャレンジしてほしい」と甲田さんは願っています。

潜在的に30万人以上いる学童保育待機

保育園には入れたものの、小学校での放課後の預け先が質・量共に不足し、仕事を辞めざるをえない社会問題。小1の壁が、働く女性の大きな課題となっています。学童保育待機児童数は約2万人に上り、単純な数の不足もありますが、限られた部屋の中だけで過ごすことで起こる、質の低下も利用者拡大を妨げており、潜在的な待機児童数は30万人ともいわれています。そこで、首都圏を中心に17の小学校で子どもたちに放課後の居場所を提供している特定非営利活動法人 放課後NPOアフタースクール（以下、放課後NPO）を取材しました。

「日本の子どもたちに「自分は価値ある人間だ」と思えますか？」と質問したところ、「はい」と答えた子は8%と、米国の57%や中国の47%と比べると大変低く、自己肯定感の低さがうかがえます（※1）。そこで、放課後に多様な経験に触れ、特技を見つづけることや、友達と心が通じ合う時間を積み重ねることが、自分に自信をもつことにつながると考え、500種類を超えるプログラムを展開しています」（事務局 島村さん）

放課後NPOでは、地元のサッカークラブチームの選手がサッカー指導を行ったり、シェフが料理を教えたりと、高校生からシニアに至るまで、多様なスキルをもった地域の方々が「市民先生」となり放課後プログラムを充実させています。結果、アフタースクールに参加した子どもたちへのアンケートでは91%が「自分に得意なことがある！」と答え、8割近い保護者の方が「安心して仕事ができる」と答えています。子育てで世帯を置き去りにせず、学校・地域・幅広い世代を巻き込み、みんなが進める子育てが、今求められています。

※1 日本青少年研究所「高校生調査」による



働く女性の子育てを支援する団体は、年々、増加中。放課後NPOでは、子どもが楽しみながら学べるプログラムを用意。

NPO Afterschool

## 今月のチャリティ団体

## 1 株式会社 AsMama



AsMama

## 子育てのシェアをサポート

託児・送迎などを頼り合う共助コミュニティ「子育てシェア」を運営。登録者数は全国約5万人に上り、利用者間で1時間500～700円の謝礼金を直接やり取りする仕組み。AsMamaへの支払いはなく、運営経費はAsMamaの顧客企業を対象としたイベント企画や広報ビジネスで賄われています。利用者のライフスタイルは主婦・完全フルタイム勤務・フリーランスと多様で、子どもにとっても保育園や幼稚園のお友達の家で遊べて楽しい、といったメリットも。AsMamaへの支援は会員になるかイベントに参加することで「共助社会」の推進に参加できます。詳しくは<http://asmama.jp/>を。

## 2 特定非営利活動法人 放課後NPOアフタースクール 放課後NPO



NPO Afterschool

## 安心で楽しい放課後を提供

「社会で子どもを育てる」をコンセプトに、小学生児童の放課後事業「アフタースクール」を展開。学童保育の預かり機能に加え、地域市民や各分野のスペシャリスト、企業の人材を「市民先生」として学校に引き、年間50を超える多様なプログラムを児童に提供しています。こうしたアフタースクールモデルを全国にスケールアウトするために、各地域が抱えるさまざまなニーズに寄り添い、そのエリアならではのアフタースクール作りをお手伝いするなど幅広く活動しています。詳しくはHPをご覧ください。<http://www.npoafterschool.org/>